

めあて

【課題1】 _____

→ (個人の考え) _____

(班の考え) _____

★ _____

【課題2】 _____

→ (個人の考え)

()	<	()	<	()
-----	---	-----	---	-----

★

()	<	()	<	()
-----	---	-----	---	-----

まとめ

メモ欄

【課題1】話し合いの条件

- 既習事項や本時の実験結果を踏まえて説明する。
- 相手に分かりやすく説明する。

・ 既習事項

酸化…物質が酸素と結びつく化学変化

還元…酸化物が酸素を失う化学変化

燃焼…光や音を出しながら酸化が激しく進む現象

・ 実験結果

マグネシウムが二酸化炭素中で_____した。

後に、_____色の物質が残った。

【課題2】発表時の約束

- 班全員が前に出て、各々の役割を果たす。
- 時間は30秒以内。

第2学年 英語科 学習指導案

日 時	令和5年 7月6日 (木)	5校時
対 象	2年	1組 18名
場 所	2年	1組 教室
授業者	教諭	大村真結 (T1)
	ALT	Nyereath (T2)

1 単元名 Program3 「Taste of Culture」 (Sunshine English Course 2)

2 単元の目標

知識及び技能	不定詞や動名詞の特徴やきまりに関する事項を理解するとともに、それらの表現を用いて簡単な語句や文を伝え合う技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	世界の屋台料理や食べ方などの食文化について、不定詞や動名詞の表現を用いて、自分の考えを整理し、まとまりのある内容を書いたり、話したりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	①外国の食文化に関する理解を深める。 ②不定詞や動名詞の表現を用いて、伝えたいことについて聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとする。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、地域のお祭りにやってきたダニエルと真央が、世界の屋台料理について対話したり、その食べ方について発表したりする内容である。本単元で取り扱う題材は、英語習得を目的とするだけでなく、国際理解教育の一環としての学習材とも言える。食文化という切り口で、自国の食文化を再認識し、他国の食文化に興味を持つことは、これからの時代を担う生徒にとって意義深いと考える。また、本単元の後半でRetellの活動を取り扱うことで、既習内容の情報を整理し、簡単な語句や文を用いて英語を表現することに取り組みやすい構成となっている。

また、学習指導要領に示される「(3) 話すこと〔発表〕イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」という目標を達成するために、外国の食文化に関する内容は、生徒の興味を引きやすく、教材として適しており、活発な言語活動を図ることのできる単元である。

新出言語材料としては、不定詞、動名詞について学習する。不定詞「to+動詞の原形」は、①名詞的用法「～すること」、②副詞的用法「～するために」、③形容詞的用法「～するための、すべき」の3つの用法を学習する。動名詞「動詞+～ing形」は、動詞の後ろに「～ing形」を取ることによって名詞の役割を果たし、不定詞①名詞的用法「～すること」と同じ表現ができることを確認する。

これらの用法を総合的に活用することで、最終的な本単元の目標である自分の伝えたいことについて、目的や理由を含めて積極的に相手に伝えようとする態度を育成することができる価値ある単元である。

(2) 生徒観

本単元を学習するにあたり、第2学年（34名）の生徒に実態調査アンケート（表1）とレディネステスト（表2）をしたところ、次のような結果が得られた。（R5.6.実施）

表1 実態調査アンケートの結果

(1) 英語を学ぶことが好きですか？ その理由は何ですか？	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
	41%	32%	24%	3%
(2) 英語学習の中で何の活動が 一番好きですか？	読む	書く	話す	聞く
	15%	18%	44%	23%
(3) 英語学習の中で何の活動が 一番苦手ですか？	9%	38%	24%	29%
	できる	まあまあできる	あまりできない	全くできない
(4) 英語で自分の伝えたい考えや気持ち を伝えることはできますか？	9%	53%	27%	11%
	思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
(5) 英語がもっと分かるようになりたい と思いますか？	71%	18%	6%	5%
	(6) 授業で学習したことを家庭学習で しっかり復習できていますか？	32%	50%	15%

表2 レディネステストの結果

〔現在進行形〕 (1) 私は今、英語を勉強しています。 【適語選択】 I am (study / studies / studying) English now.	正答率 73.5%
〔未来を表す表現〕 【適語選択】 (2) 彼は明日、バスケットボールをするつもりです。 He is going to (play / plays / playing) basketball tomorrow.	正答率 79.4%
〔助動詞〕 (3) 私は夕食を作らなければなりません。 【適語選択】 I have to (made / making / make) dinner.	正答率 79.4%

本学級の生徒は、英語に対して苦手意識が強い生徒が1名、黒板の英文を正確に書き写すことが難しい生徒や時間がかかる生徒が2名おり、全体的に「書く活動」に苦手意識を持っている生徒が多い。一方、「話す活動」を好む生徒は4技能の中で一番多く、自分の考えや気持ちを間違いを恐れず相手に話そうとする雰囲気がクラスに根付いている。

また、「英語で自分の伝えたい考えや気持ちを伝えることはできますか？」という問いに対する肯定群は、62%であり、89%の生徒は、「英語がもっと分かるようになりたい」と感じている。

「授業で学習したことを家庭学習でしっかり復習できていますか？」という問いに対する肯定群は82%あり、授業の振り返りが有意義であるとの認識が高い。

表1(1)の実態アンケート調査から分かるように、全体的に英語を学ぶことに好意的である生徒は多い傾向にあるが、本学年の昨年度市学力テスト英語の観点別正答率は、全国平均正答率との比較で、知識・技能が-8.4ポイント、思考・判断・表現が-6.5ポイント、主体的に学習に取り組む態度が-7.7ポイントであった。これらの結果から分かるように、英語学習に対する興味・関心が、学力に結び付いておらず、全体的な英語力の底上げが必要不可欠であり、英語の知識及び技能を定着させる手立てが必要である。

生徒は、一年次に現在進行形「be動詞+～ing形」を学習し、前単元では、「be going to+動詞の原形」、「have to+動詞の原形」を学習しているため「to+動詞の原形」、「～ing形」という基本的な形は既習している。レディネステストでは、どの問題も70%以上が理解していた。しかし、動名詞の用法や同じ表現でも、意味が異なる不定詞3つの用法は、初めて学習する言語材料であり、目的・場面・状況に応じて表現を使い分ける場合に混同することが予想される。

(3) 指導観

教科書本文の内容読解を通して、様々な国の屋台料理やその食べ方について紹介し、その背景にある文化を知り、食文化に関する関心を高める。そして、不定詞①名詞的用法「～すること」②副詞的用法「～するために」③形容詞的用法「～するための、すべき」と動名詞「～すること」の用法を用いて、目的・場面・状況に応じた言語活動を仕組み、意味のある文脈の中で他者と協働しながら英語を表現する場面を仕組むことが必要であると考え。そして、英語で話す楽しさを、生徒の表現力向上につなげ、英語を主体的に学ぼうとする生徒の育成に力を入れていく。

また、Retell活動においては、簡単な文や学習した不定詞、動名詞の用法を用いて、南スーダン出身のニヤラー先生に、アメリカ合衆国(以下、アメリカ)とオランダ王国(以下、オランダ)の食文化に関するイラストや写真を英語で分かりやすく説明できるようにする。その際、班学習を取り入れ、英語を苦手とする生徒に対しては、考えを友人と共有することで、自分の考えを深めさせる。一方、英語を得意とする生徒に対しては、仲間と教え合ったり、自分が伝えたい内容を様々な視点から考えたり、英文にしたりすることで、英語表現の幅を広げることができるようにする態度を育てる。こうして、班でめあてを達成する喜びを共有できると考える。そして、「南スーダン出身のニヤラー先生にアメリカとオランダの食文化を分かりやすく説明しよう」という場面設定をすることで、学習した不定詞、動名詞の英語表現を用いて自分の伝えたいことを聞き手に積極的に表現しようとする態度を育てる。

また研究主題である「深い学びに向けた授業・家庭学習の創造」～「学びに向かう力」の育成を目指して」～に迫るため、次の2つの指導を行う。

- ① 「書くこと」や「話すこと」に重点を置いた授業を展開するために、具体的な場面を設定し自分の表現したい英文を書かせる。その後、ペアや班で考えを共有することで、相手の考えのよさを知るとともに、自分の考えを深めさせる。班活動後は、学級での発表を通して、英語を話すことの楽しさを実感させるとともに、他班の異なる考え聞き、学級全体として学び合いの学習を進めていく。
- ② 家庭学習の一環として、「外国の食文化」について調べさせたり、授業で学習した言語材料を用いて、自分の考えや気持ちを英語で書かせたりすることで、興味・関心を引き出し、学びに向かう力を高めさせる。こうして根気強く英語に触れあう場面設定を多く作り出すことで、英語の知識及び技能の定着を図っていく。また、互いに学び合い、生徒一人一人に成就感を味わわせることができるよう配慮することで、生徒が、不定詞や動名詞の表現を用いて、自分の考えを整理し、自分の伝